

汗をかいて、泥んこになつて 行動で語る多忙の人

低迷が続く国内景気、それでも
「鯉需要はある」と言い切る。
「ダメと思うからダメ」、
考える前に現場で汗をかく。
池の設計施工からメンテナンスはもちろん、
水に関わることならなんでもこなす。
一方で「錦鯉飼育は学校」と愛好家を育てる、
中川章氏の多忙な毎日。

なかがわ あきら
中川 章氏

昭和19年10月14日生まれ。
大阪府枚方市、京阪錦鯉センター代表。
生産から池管理まで幅広くニーズに応える。

多忙の店主

大阪府枚方市、(有)京阪錦鯉センター

代表・中川章氏を訪ねたものの、本人は不在。多忙につき戻る時間がわからぬ。

平日で客足はそれほどでもないが、

夏休みということもあり家族連れが釣り糸を垂れる。大小様々な錦鯉が泳ぐ釣堀は土日になると順番待ちが出るほどに賑わう。奥には観賞魚の販売スペースがあり、多種類の金魚やメダカなどが展示されていた。

中川氏の出身は九州、長崎県佐世保市。生家の隣は桜蘭を輩出した小川養魚場。

「小学校の時から鯉見とった。そう自

然と好きになつたって感じやね」。

高校を卒業後上阪した中川氏はい

くつかの職を転々とした後、20代半ば

仕入れた錦鯉や金魚などの販売からス

タートした。

「3店舗大阪に出したんやわ。でも任せた人間がおらんで結局閉めて、大きくなつてみたいたいなと思って土地探しで、ここはええ水が出るということで買ったわけ。17年くらい前かな」。

池、水、鯉

「池に関すること、魚に関すること、

濾過設備に関することは全部やる」。

観賞池の設計施工、メンテナンスから管理まで全般を請け負う。

錦鯉業界において珍しいことではないが、中川氏にとつて業界内のみが市場ではなく府の建設業許可を取得し、愛好家のみならず公共施設や各種法人

で運送業に落ち着くが、その頃に愛好家として飼育を始めた。

「ずっと鯉を売る店をやりたいって

いうのが頭にあつた。運送屋を3年くらいやつたんですよ。その後によしやつてやれつて駅の近くに店舗借りて始めたんが最初よね。その時お世話になつたのが丸一佐久間(山梨県)さん」。

枚方市駅近くに借りた店舗が京阪錦鯉センターの始まり。丸一佐久間から仕入れた錦鯉や金魚などの販売からスタートした。

「3店舗大阪に出したんやわ。でも任せた人間がおらんで結局閉めて、大きくなつてみたいたいなと思って土地探しで、ここはええ水が出るということで買ったわけ。17年くらい前かな」。

「実績がなきや(許可を)くれんからね」。

ひと池工事があれば、まとまつた数の鯉が売れ、リピートもある。

「池工事と繋がつての面があつてね、意外と中羽で50cmくらいの鯉がまとまって出るんよね。この間造つたところも150匹入れたかな」。

こういった需要が年間引つ切りなしにある。

また強制濾過機・スーパーマリンの製造販売元でもある。これは松山マリン(愛媛県)から業務を引き継いだ形だ

が、もともとの機械の欠点を知り尽くして、いたため、一から図面を引き直し改良した。

「水の濾過というのは鯉だけやないからね。公園だって動物園だって水使

など様々な観賞池や濾過設備の工事に関わっている。建設業として府の許可を得るためには工事実績が十分であることを提示しなければならなかつた。

「月に何件、池の工事をしたか10年遡つて見積り、請求書、入金の通帳、全部提出しなきやならなかつた」。

許可を得なれば府からの発注工事の予算に上限が出来、仕事が制限されることになる。

「実績がなきや(許可を)くれんからね」。

許可を得なれば府からの発注工事の予算に上限が出来、仕事が制限されることは提示しなければならなかつた。

月に何件、池の工事をしたか10年遡つて見積り、請求書、入金の通帳、全

うやろ」。

もちろん個人池の工事も請け負う。中川氏の感触では新しく鯉飼育を始めた人は増えていると言う。

「底辺の人は増えてるよね。かなり増えてる。生産しても中羽を大事にせないかんという感じ」。



京阪錦鯉センター



展示ハウス池

「いい鯉を売つて品評会でいい賞を取らせてつてスタイルの業者さんももは言う。

「中羽はいる。売るのは中羽だが池の施工から後々のケアまでをビジネスとして考えれば、単価の高い鯉を売るよりも「確実に日銭が入る」と中川氏

話題ばかりだが…。

「需要はあるよ。確かにお金持つていい鯉を買うというマニアの人気が少なくなってるから売れないという話になるのはわかるけどね」。

「ブランド鯉を1本いくらで、そういう感覚から離れたところに新しい需要がある。

「鯉で知り合って長いことお付き合いができるように、信用してもらえるようですね」。

「底辺の需要」が一時的なものにならないよう腐心もする。初心者には錦鯉飼育とは学校のようなものと説明する

そうだ。

「勉強してもらわなアカンよと。鯉飼育は楽しみより苦しみで始まるよ。その苦しみの中から勉強してください。小学校1年生から早く2年生になつて大学卒業してください。何年掛かるかわからんけどそれは努力ですよ。失敗して勉強する。月謝納めて勉強して貰くなつていくんやから」。

最初はほとんど理解してもらえない、しかし続けていればわかる時期が来る。中川氏もできるだけフォローを忘れない。

「何月にはこういう病気が出やすいですよとか、こういう消毒をしてくださいよとか全部まとめてあげるんよ。一生懸命読んで『助かったよ』と言う人と、置いたままの人がおるわけよね。そこで差が出てきちゃう。そういう人は『中退』することもあるね(笑)」。

飼育を勉強中の初心者にブランド鯉はいる。卖るのは中羽だが池の施工から後々のケアまでをビジネスとして考えれば、単価の高い鯉を売るよりも「確実に日銭が入る」と中川氏

もちろん必要。でもそればかりではいかんわな。何百万の鯉がちょこちよこ売れるならいいけどね」。

スカーレットクイーン

「6才の池上げの時に、この鯉はもう終わりかなと思うくらいやもん。色は薄いし、体形も詰まってきたなあつひは堅いな、もう終わりかなと…」。中川氏は全日鱗第30回大会(平成6年)で全体総合優勝を獲得した瀧川信夫氏のかんすけ紅白・スカーレットクイーンを世に送り出したことで知られているが、その印象を尋ねるとそう振り返る。

当才で仕入れ、永井保氏(大阪府)に販売した後、野池で4年間飼育した。「これはもう仕上げよう、野池入れる必要ないやろ。それで1年ウチの300トン泉水で飼うて色がグーンと揚がってきたんや、ビカビカに仕上がった。これはもう国魚貴うたわつて」。

目論み通り、第25回全日本総合(平成5年)では75部国魚賞を獲得。その後、中川氏の手を離れ瀧川氏の元に渡り、

同年の全日鱗第29回大会で壮魚総合優勝獲得を経て、全国制覇へ至る。

大魚は体

現在、京阪錦鯉センターは自家産をメインに販売している。今年は御三家各1腹と、落葉しぐれ1腹を探つたが、御三家以外はその年によつて変わる。

「もともと紅白は阪井のどんぐり系。

もう20何才になるんやけど、その仔が親になつて。他に星金のメスがあるんやけど、それに阪井のオス2本掛けたりね。今年は星金のほう。メスもオスも体がいいよ」。

第2選を終え、中川氏は手応えを感じている。

「体がいいよ。網を曳いた感じでわかる。どんどん突つ込んでくるからね。力強い」。

力強さとは体形の良否に関係あるのだろうか。

「あるよ。泳ぎ強い鯉は体形もいい。網曳いてもおとなしく上がつてくるやつもおるんよ。そういうやつは体弱いよ」。

続いて大正三色。

「寅蔵、昔の寅蔵。それに松之助のオ

スを掛けたり、自家産を掛けたり。寅蔵の仔も泳ぎが全然違うね。大変よ、網曳く時。狭いところから突つ込んできよんねん、逃げようと思つてね」。

昭和は竹田産のメスに大日産のオスを掛けたが、オス寄りの仔とメス寄りの仔と個性が分かれるという。

「完全に分かれるよ。竹田さん風と大日さん風と(笑)。見ただけでわかるもんね。大日さん風だと当才でも墨がちな鯉が多い、竹田さん風は後墨のが多い」。

昭和の生産には目指す先がある。第27回広島県農業祭で大臣賞を獲得した大日昭和(竹田養鯉場出品)。

「やつぱり体よ、体がいい。モノがどうこうよりまず体よ」。

柄を見るのは60cm程度までと中川氏は言う。

「大きな鯉つてのはもう体しかないと思うよ。体がいいってことは泳ぐ姿がいいってことやからさ。泳ぐ宝石つてのはやつぱり体よ」。

汗をかいて、泥んこになつて

鯉の生産から野池管理、池の設計施

工、メンテナンス等々、中川氏は1日中走り回つて。取材も多忙の中、時間を作つてもらつてのことだつた。

「今日はまだいい。明日は(池工事の)現場にいかんと」と忙しない。

この日も雑鯉4千尾の出荷がある。

選別漏れの鯉もおろそかにできない。

「全国の釣堀から注文がある。他にも田圃に入れて飼うからとか。こんなこと邪魔くさいからみんなせんのやろ。

でも雑鯉を売つたところから、いろいろ繋がつてくる。池を改造したいから図面書いてくれとか、書いたはいいけど、よう造らん言うてるからやつてくれるやろうかとか」。

锦鯉だけではない。あらゆる業種に言えることだ。不況だけの問題ではない。「もうダメやつて思うからダメになるんやないの?」。

中羽壳りであつても、毎年カレンダーを送る。そんな小さな気遣いからそんな繋がりができることがある。「やつぱりやる気、やらないかん。食うていいこうと思うたら横着せんともつと動いて汗かいて泥んこになつて仕事せもある(笑)」。

锦鯉だけではない。あらゆる業種に言えることだ。不況だけの問題ではない。「もうダメやつて思うからダメになるんやないの?」。

锦鯉だけではない。あらゆる業種に言えることだ。不況だけの問題ではない。「もうダメやつて思うからダメになるんやないの?」。



DATA

(有)京阪錦鯉センター
〒573-0117 大阪府枚方市杉2-20-1
TEL.072-896-1151 FAX.072-896-1651

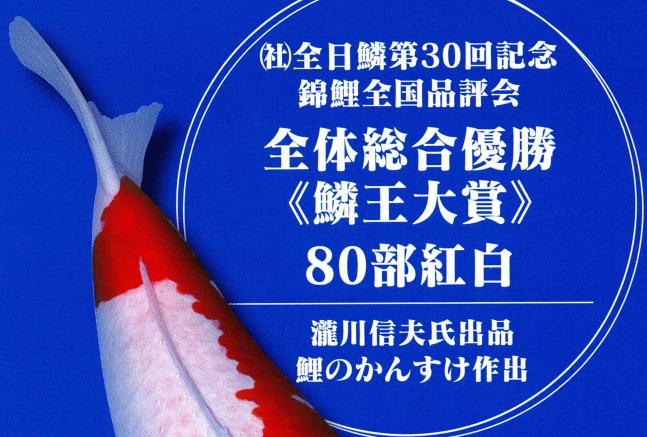




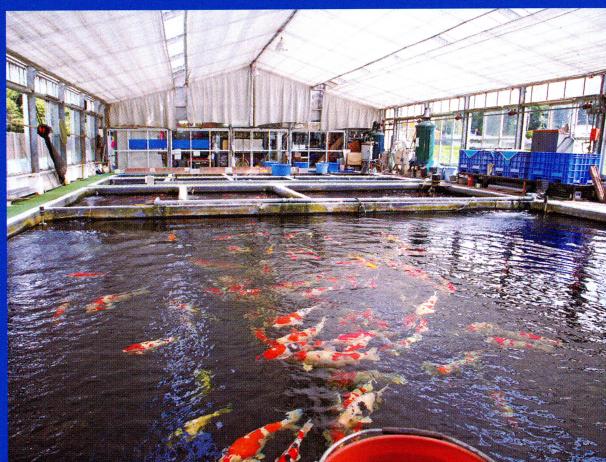
家族で楽しめる錦鯉釣堀



観賞魚売場



第27回広島県農業祭、大臣賞の昭和
(株)錦彩出版・月刊錦鯉より転載)



手前が300トン泉水



スタッフの石川康氏

